



クリスマスまでに、あと 3000人の チャイルド・スポンサーを募集しています

「新しい自分、ここから。」キャンペーン

ワールド・ビジョン・ジャパンは、11/1(日)~12/28(月)まで、厳しい環境で暮らす世界の子どもたちに支援を届けるため、「新しい自分、ここから。」キャンペーンを実施します。期間中、3000人のチャイルド・スポンサーを大募集。

1人でも多くの子どもたちが厳しい環境から抜け出し、「新しい自分」を生きたい、また、支援することを通じて日本の皆さまにも「新しい自分」を見つけていただきたいと願い、様々な企画をご用意しています。ぜひ、このキャンペーンにご参加ください！



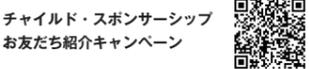
今、あなたにできる3つのこと

1 チャイルド・スポンサー になって応援

世界中が苦しんでいる今、さらに厳しい環境で生きる子どもたちを救うため、クリスマスまでに 3000 人のチャイルド・スポンサーを募集しています。もう一人分のご支援を追加くださる方、また新しくチャイルド・スポンサーになってくださる方からのご連絡をお待ちしています。

2 お友だちにシェアして応援

あなたの周りにも、支援に興味がありながら「何から始めていいかわからない」という方がいらっしゃるのではないのでしょうか。ワールド・ビジョンではお友だち紹介キャンペーンを実施しています。ぜひお友だちにご紹介ください。また、公式 SNS では、世界の子どもたちをとりまく情報を毎日発信。あなたの「いいね！」や「シェア」も大きな力になります！



チャイルド・スポンサーシップ
お友だち紹介キャンペーン



LINE



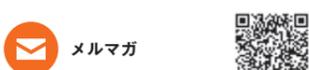
FACEBOOK
@worldvisionjapan



Instagram
@worldvisionjapan



Twitter
@WorldVisionJPN



メルマガ

オンライン WV フェス
イベント特設サイト



チャイルド・スポンサーシップ、
募金のお申込みはこちら

電話でのお申込み ▶ 0120-465-009

WEB からの申込み ▶

World Vision News No.196 2020年 11月発行 ワールド・ビジョンニュース

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン

〒164-0012 東京都中野区本町 1-32-2ハーモニータワー 3F TEL 03-5334-5351 FAX 03-5334-5359

※新型コロナウイルス感染拡大防止への対応として事務局機能を縮小し、電話受付時間を短縮している場合がございます。ご了承ください。

dservice@worldvision.or.jp www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンは、キリスト教精神に基づき世界の子どもたちを支援している国際 NGO です

World Vision

この子を救う。未来を救う。

World Vision

この子を救う。未来を救う。

World Vision News

新しい自分、ここから。

チャイルド・スポンサーシップで見つけた「新しい自分」

新しい自分、ここから。チャイルド・スポンサーシップで見つけた「新しい自分」

196

2020年 冬号
ワールド・ビジョンニュース

クリスマスまでに、あと 3000人の子どもを救いたい

新しい自分、 ここから。

生活様式、働き方、価値観・・・世界は急に新しくなりました
いろんなものが不確かで、誰も正解を知らない世界
突然放り込まれた世界は、不安だらけです

でも、新しい世界になっても変わらないものがあります
それは、ひとは1人では生きていけないということ
誰かとつながり、誰かとともに生きていくことが、
人生を豊かにしてくれます

国境を越えてあの子とつながり、お互いを思いあう
その特別なつながりは、あなたとあの子の両方を強くする
あの子は夢を取り戻し、あの子の夢は、あなたの希望となる

不安な「新しい世界」を、希望の色にぬりかえよう

新しい自分、ここから。
チャイルド・スポンサーシップ



蓮沼で働くテリちゃん（カンボジア 8歳）

「新しい自分」を夢見て——

危険な蓮沼で働く少女、テリちゃん（8歳）



リアカーに乗せられ仕事場に向かう

テリちゃんの1日は朝5時に始まります。リアカーに乗せられ、まだ薄暗い中を蓮沼へ向かいます。朝のうちに蓮の葉や根を採って、午後になると町へ売りに出かけます。これがテリちゃんの仕事です。

「蓮の根を採るのが難しいの。深いところにあるから水に潜らないといけないの。時々、仕事に行きたくないって泣いちゃうこともある」そう話すテリちゃん。胸の高さまである水の中を、全身ずぶ濡れになりながら作業をします。靴を履いていない足を、沼底の石や捨てられた空き缶でケガをすることも日常茶飯事だといいます。

テリちゃんのお父さんは4年前、病気で亡くなりました。「あの子はお父さんが大好きで身体を拭いてあげ、ずっと世話をしてくれました。お父さんの治療のために借りた借金もまだ残っています」お母さんが話してくれました。

「夢はDoctor！お父さんみたいに苦しむ人を助けたい」テリちゃんは、新しい自分を夢見ています。いつか学校に行けるようになって、勉強してお医者さんになり、お父さんのように苦しんでいる人たちを助けたいと願っています。



全身濡れながら桶いっぱい蓮の葉と根を集める



一緒に作業するテリちゃんの弟（5歳）



将来の夢は「お医者さん」

チャイルド・スポンサーシップで見つけた「新しい自分」

貧困から抜け出せず、テリちゃんのように厳しい生活を強いられる子どもは、世界で約3億8,500万人^{*}。そんな子どもたちの健やかな成長を目指して、子どもが住む地域全体を継続して支援するプログラムがチャイルド・スポンサーシップです。この支援を通じて、「新しい自分」を見つけた人たちがいます。

※WORLD BANK GROUP, UNICEF: Ending Extreme Poverty: a Focus on Children, 2016

バングラデシュのジョナちゃん

線路脇のスラムで家族と暮らしていたジョナちゃん。読み書きができない両親は定職につけず、ゴミ拾いをしてわずかな収入を得ていました。しかし、ジョナちゃんにチャイルド・スポンサーが紹介されたことで家族の生活は一変。お父さんは職業訓練を受けて人力車の運転手になり、収入を得られるようになりました。スラムから引越し、ジョナちゃんはずっと憧れていた学校へ行くことができました。チャイルド・スポンサーとの手紙の交流を通じて励ましを得、「警察官になってみんなを守りたい」という夢に向かって頑張っています。



学校で勉強にはげむジョナちゃん（9歳）。制服を着て学校へ行くのが嬉しくてたまらないといいます



H.さん（30代）東京都 / 会社員

チャイルド・スポンサーのHさん

チャイルド・スポンサーになって1年目のHさん。心境の変化を次のように語ってくれました。「チャイルドが紹介されて、まあ、本当に心から嬉しかったわけです。ケニアに住むキカナエくんとながれたことが感謝だし、僕もキカナエくんの努力に負けたくない、新しいチャレンジをどんどんやってみようと思います。今はチャイルド・スポンサーシップの個人的アンバサダーと思って、友達にも紹介しまくっています。意外と共感してくれる人が多くて、これも自分には新しい発見でした！」

クリスマスまでに、あと3000人のチャイルド・スポンサーを募集しています



ワールド・ビジョン・ジャパンは、新しい自分になりたいと願うより多くの子どもたちに支援を届けるため、「新しい自分、ここから。」キャンペーンをクリスマスまで実施します。期間中、あと3000人のチャイルド・スポンサーを大募集。一人でも何かもを変えることはできませんが、一人ひとりができることを始めれば世界は変わっていきます。その変化を通じて、あなたにも新しい世界が拓けてくるはず。キャンペーンへの応援をどうぞよろしくお願いいたします！（詳細は裏表紙をご覧ください）

ワールド・ビジョンが世界最大級NGOのわけ

ご支援者の皆さまとともに、世界中に届けている支援とそのインパクト（2019年度まとめ）

すべて2019年9月末時点のデータです

ワールド・ビジョンは1950年に設立され、今年で70周年を迎えました。これまでのワールド・ビジョンの支援を通して生活が変わった子どもの数は2億人以上にもなります。アメリカ人宣教師で創設者のボブ・ピアスの想い「すべての人々に“何か”はできなくとも、だれかに“何か”はきっとできる」が、人々の共感を呼び、世界最大級の国際NGOへと成長しました。今回の特集では、ワールド・ビジョン・ジャパンを含む、ワールド・ビジョン全体で生み出しているインパクトをご紹介します。



340万人

340万人の子どもにチャイルド・スポンサーが紹介されました



1,000基

世界中の学校に1,000基の水設備を導入、総計340万人がきれいな水を手に入れました



860万人

29カ国での食糧支援を通して、860万人（うち、500万人が子ども）が食糧を得ました



90%

極度の栄養不良状態にあった13万6,000人の子どもたちの90%が治療を受け、完全に回復しました



2,000万人

76の緊急人道支援活動により2,000万人（うち、1,300万人が子ども）が緊急期を乗り越えました



21万8,000人

21万8,000人の男女が地域の貯蓄グループに参加し、経済的な安定を得ました



330

330の政策提言書を政府関係者に提出し、子どもの保護に対するアクションをとるよう働きかけました

拠点は世界92カ国



ワールド・ビジョンは、世界92カ国に事務所があり、3万7,668人のスタッフが活動しています。加えて、10万3,801人のボランティアスタッフがともに活動してくださっており、地域住民やご支援者の方々の信頼、想い、サポートに支えられていることが分かります。92カ国にある事務所のうち、支援を届ける側の事務所（サポートオフィス）は約23%、支援を実施する側の事務所（フィールドオフィス）が約77%です。ワールド・ビジョン・ジャパンはサポートオフィスとして82人のスタッフ、9人の海外派遣・駐在スタッフ、334人のボランティアスタッフで活動しています。年間の経常収益は約60億円です。

経常収益は約2,900億円



ワールド・ビジョン全体の経常収益は、約2,900億円。主に、開発援助（チャイルド・スポンサーシッププログラム）に1,560億円、緊急人道支援に919億円、啓発・アドボカシーに19億円、資金調達活動に294億円、管理費に162億円等、様々な形で活用しています。地域別で見ると、アフリカでの活動に1,150億円、アジアでの活動に485億円、中東/ヨーロッパでの活動に374億円、アメリカ/カナダでの活動に208億円、ラテンアメリカ/カリブ地域での活動に202億円、オーストラリア/ニュージーランドでの活動に10億円等となっています。



10分でわかるチャイルド・スポンサーシップ

チャイルド・スポンサーシップについて、ご支援者の皆さまからよくいただくご質問をクマネコが教えてくれるコーナーです。第2回は特別編、支援地域での新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応についてお伝えします。

このコロナ禍での開発途上国の状況はどうか？



新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的大流行は、多くの子どもたちにさまざまな影響をおよぼしています。ワールド・ビジョンが支援活動を行っている国々の子どもたちは、病気の脅威だけでなく、二次的影響も受けています。COVID-19 予防のためのロックダウン（都市封鎖）等による経済状況の悪化で、職を失った家族が家や食料など基本的ものを失い、栄養不良のリスクが高まっています。また、家で過ごす時間が増え心理的ストレスが溜まり、暴力や虐待のリスクにも直面しています。

大変な状況ですね。では、チャイルド・スポンサーシップ・プログラムを行っている支援地域の状況はどうか。支援がチャイルドのためになっているのか、そしてチャイルドが安全に暮らしているか心配です。



チャイルド・スポンサーシップ・プログラムを行っている地域では、こうしたCOVID-19 による影響を最小限にする活動を行っています。それは、子どもたちや地域の人々と信頼関係を築き、地域に根ざした活動を行ってきた背景があるからです。また、このような厳しい状況の中でも、継続的にチャイルド・スポンサーの皆さまがご支援くださっていることで、COVID-19 の影響に対応するだけでなく、子どもたちが貧困や厳しい状況から抜け出すための支援を届けることができている。コミュニティでの活動に制限を設けられている地域では、遠隔で支援活動を行っています。



ミャンマー・ヘニ 地域開発プログラムでの COVID-19 下における生計向上支援

「このような中でも、クイリングペーパーでイヤリングの作り方を覚えて、本当にうれしいです」と語るのは、チャイルドのお母さんのダー・ジン・ヒン・アエさん。COVID-19 拡大が心配される中、現場ではプログラム内容を調整して活動を継続しています。この地域では、オンラインを使った職業訓練を地域の女性たちに実施しています。クイリング（細長い紙を渦巻き状にしたパーツを組み合わせたもの）のアクセサリは若い女性たちに非常に人気があり、このような製品を生産することで、より多くの雇用機会を創出し、地域の女性たちの能力の向上を図っています。



ワールド・ビジョンの支援地域で行っている活動を課題ごとにご紹介します。



保健・栄養改善

医療従事者や保健ボランティアへの研修も行い、COVID-19 流行時だけでなく、今後も子どもたちが必要な時に適切な医療を受けられるよう、保健プログラムを強化しています。また、子どもたちの栄養状態を維持するために食料を提供したり、家庭で作物を育て、収入を得られるよう物資を支援したりしています。



地域の病院に個人用防護服や医療用品を支援しました（ケニア）



水衛生

COVID-19 の予防方法に関するメッセージの発信や公共の手洗い場の設置、手洗い用品、マスクなどの必需品の配布などを行っています。また、地域住民が正しい衛生習慣を学べるよう研修を行い、COVID-19 の予防のみならず、汚染水や不衛生が原因の病気も予防できるよう支援しています。



手洗いを実践しています（ルワンダ）



生計向上

COVID-19 の影響で経済状況が悪化した家庭には、現金給付を行いました。また、地域住民に新しい技術やビジネスに関する研修、協同組合結成のための支援をしています。



オンラインで女性グループ向けに生計向上の研修を行いました（ミャンマー）



教育

学校が閉鎖され、通学できない子どもたちのために、家庭学習のための教材を配布し、ラジオやオンラインツールを使って勉強できる環境も整備しています。また、家族には家庭学習の重要性を伝えています。

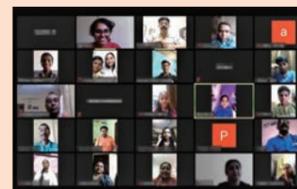


家庭学習のための教材を配布しました（エクアドル）



子どもの保護

子どもたちの状況を把握し、子どもたちの心理的ストレスを緩和させるため、定期的に携帯電話や訪問を通じて見守っています。ラジオやチラシで、子どもの保護に関するメッセージを発信し、子どもたちが少しでも安心して暮らせるよう支援しています。



オンラインで子どもたちとつながっています（インド）

チャイルド・スポンサーの皆さまの継続的なご支援のおかげで、COVID-19 の厳しい状況の中でも支援地域に住む子どもたちの今を支え、未来に希望を持てるよう活動することができています。ご支援に心から感謝いたします。

チャイルドへの手紙やクリスマスカードの郵送、E レターの送信は、お控えください

現在も多くの国で国際郵便の受け入れ停止・配達遅延が生じ、支援地域での活動も制限されているため、チャイルドに手紙を届けることが難しい状況です。すでにお送りいただいた手紙や受け入れ停止により返送された国際郵便は、東京事務所で大切に保管しています。手紙再開についてはホームページ等でお知らせします。ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

緊急人道支援 / 食糧支援の現場から

「アフリカの角」と呼ばれる一帯を含む東アフリカでは、気候変動の影響や、紛争からの避難生活等で、食糧不足にある人々は 2400 万人と推測されていました。今年、その数は 7 割近く増加し、4150 万人もの人々が食べ物が無いという状況に直面しています（※）。なぜ今、東アフリカがこれほど深刻な食糧危機にあるのか、その要因についてご紹介します

※ 出典：
WFP 20 August 2020 | COVID-19 Level 3 Emergency | External Situation Report #13



感染予防のマスク着用で計量するスタッフ
(ウガンダ / ビディビディ難民居住区の食糧配給エリア、2020年4月)



「アフリカの角」

東アフリカの中でも、インド洋と紅海に向かって突き出た半島は、「アフリカの角」と呼ばれ、古来より戦略拠点として注目され、紛争が絶えない地域です。加えて、干ばつや大洪水、バッタの大量発生などの気候要因で、農作物の収穫が激減したり、家畜が死亡するなど、生計手段を失った人々の貧困と食糧不足を引き起こしています。

出典：外務省 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/wakaru/topics/vol78/index.html>

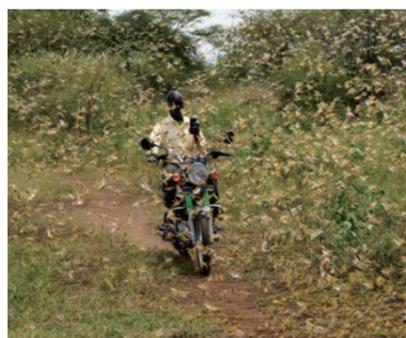
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の大流行

アフリカ各地で、感染拡大を防ぐために人々の移動の制限や、都市封鎖(ロックダウン)を発令しており、経済活動も停滞しています。そのため、COVID-19 流行前よりもさらに多くの人々が、収入を失い、食べ物を手に入れない生活を余儀なくされています。医療体制が弱い地域では、十分に食事がとれないことで免疫力が弱まり、食べ物の有無が新型コロナウイルス感染症だけでなく、様々な病気からの生死の分かれ目になっています。



サバクトビバッタの大発生

2018年から2019年にかけて東アフリカに幾度も大雨がもたらされました。これがサバクトビバッタの繁殖に最適な条件となり、2020年には何十年に一度というレベルでの大繁殖を引き起こしました。このバッタは、1平方キロメートルあたり数千万匹という群れを成し、一日に人間35,000人分にも匹敵する農作物を食い尽くします。そして次の食べ物を求めて一日に150キロ近くを移動していきます。農作物だけでなく、家畜の飼料となる草も食べるため、家畜が死に、生計手段を失う人々も多くいます。



バッタの大群の中を移動する男性(ウガンダ)

南スーダンのエスターちゃんのストーリー

南スーダン・ジュバの栄養センターに健診に来たエスターちゃん。上腕計測メジャーの赤色は、深刻な栄養不良を示しています。南スーダンでは、2020年に人口の半数を超える648万人(※1)が食糧不足に直面し、5歳未満児130万人(※2)が重度の急性栄養不良に陥ると推測されています。

※1 WFP:Emergency Dashboard July 2020- South Sudan
※2 UNICEF: Humanitarian Action for Children-South Sudan

ワールド・ビジョンでは…

気候変動の影響や紛争からの厳しい避難生活に、新型コロナウイルス感染症の拡大による経済打撃が加わり、従来よりもさらに多くの人々が、明日食べるものがないという不安の中で暮らしています。ワールド・ビジョンでは、難民・避難民の世帯等、弱い立場にある人々・子どもたちへ命と未来を守る食糧支援を行います。難民居住区では、検温やマスク着用、人々の間隔を保つ等、感染予防策を取りながら、人々への食糧配布を行っています。学校給食が唯一の栄養源であった子どもたちは、学校の休校にともない、給食が食べられなくなりました。そのため食糧を自宅へ持ち帰る方式に切り替えて食糧支援を実施するべく、関係各所との調整を進めています。

新型コロナウイルスや気候変動の影響の中でも、子どもたちの命と未来を守る食糧を届けるために、募金にご協力ください

ワールド・ビジョン クリスマス募金



子どもに優しいスペース (ChildFriendlySpace) で支給される栄養強化粥を食べる男の子 (ウガンダの難民居住区)

オンラインWVフェス開催決定!



この冬、皆さまと直接お会いして活動をご報告することは叶いませんが、ご安心ください! 11月、12月は、「オンラインWVフェス」として毎週、地域の様子や活動に関する動画をお届けします。

支援地域の食事を自宅で作れるお料理動画、親子向け動画、スタッフが想いを語るインタビュー動画、過去のオンラインカフェのアーカイブに加えて、オンラインイベント(11/6夜 テーマ:ウガンダ)も開催します!最新情報はメールマガジン、ホームページでご確認ください。皆さま、ぜひイベントに参加したり、動画を観たり、国際協力に関心のあるお知り合いの方に情報をお伝えいただき、オンラインWVフェスにご参加ください!

遺贈、相続財産からのご寄付

「最期の社会貢献」として近年注目が高まっている、遺贈や相続財産からの寄付。WVは十数年にわたり、これらのご寄付をお受けしています。ご自身や、大切な方の財産を、子どもたちのより良い未来に役立てるために、ぜひWVJにお手伝いさせていただきませんか?弁護士などの専門家や関係機関と連携しながら、担当スタッフが伴走いたします。詳しいパンフレットもご用意しています。ぜひお気軽にお問合せください。

ご相談・お問い合わせは
電話: 03-5334-5351(平日 11:00~15:00) メール: dservice@worldvision.or.jp



お引越しされていませんか? ご連絡お待ちしております!

チャイルドからの手紙や成長報告、グリーティングカード、そして寄付金控除等に必要の領収証、どれも世界に一通しかない大切な郵送物です。確実にお手元にお届けできるよう、お引越しされた方やこれからお引越しの予定がある方はワールド・ビジョン・ジャパンまでご連絡ください。2020年領収証のお届け先は、12月18日までにご連絡いただいたご住所になります。

マイワールド・ビジョンから簡単にご変更いただけます。

ログイン後、「登録情報の確認、変更」よりお手続きください。



2020年の領収証は2021年1月20日に発送予定です

2020年1月1日から2020年12月31日までに当団体が受領したご支援金の領収証を2021年1月20日に皆さまへ発送予定です。

クレジットカードによる寄付はVISA、MASTERCARD、セゾンカードの場合は2020年11月までの寄付が、JCB、AMEX、ダイナースクラブの場合は2020年10月までの寄付が対象となります。また、コンビニエンスストアをご利用の場合で、2020年領収証の領収金額に寄付を含めることをご希望の場合は、2020年12月10日までをお願いします。

当団体は東京都より「認定NPO法人」として認められており、皆さまからのご支援金は、確定申告によって税制上の優遇措置が受けられ、最大40%が控除されます。(年末調整では寄付金控除等を受けることはできません)領収証が届きましたら、確定申告まで大切に保管してください。

新型コロナウイルスの感染拡大防止への対応として、事務局機能を一部縮小しております。住所変更のご連絡やお問い合わせは、ホームページからご連絡をいただけますようお願いいたします。



世界に思いをはせて Vol.7 事務局長 木内 真理子

今は8月末。短い夏休みを終えて近所の小中学生が学校に通う姿が見られます。新型コロナウイルス感染症で子どもたちの生活は一変しました。約180カ国で生徒が休校を経験されています(世界銀行調査)。そんな中、毎日聞こえてくるのは「学校に行きたい」とい

子どもたちの声です。子どもだけではありません。4月にヨルダンで行った調査では、シリア難民の家庭が緊急に必要としている支援は、生活資金、食糧、そして子どもの教育でした。どんな時でも次世代を担う子どもの健やかな成長は世界共通の願いなのだと思いがけられました。